

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成 28 年度 第 2 回 宍粟市子ども・子育て会議	
開 催 日 時	平成 29 年 3 月 1 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分	
開 催 場 所	宍粟市役所 北庁舎 401 会議室	
議 長（会 長） 氏 名	新庄 康史	
委 員 氏 名	（出席者）西山真弓、畑尾浩弥、森脇典子、 田中かおり、石原あや子、山田里香、新庄康 史、山根直美、山本千津子、谷林由美	（欠席者）北口逸未、 進藤智彦、西山和典、 米田敦子
事 務 氏 名	健康福祉部 大島部長、志水次長、津村次長 健康福祉部社会福祉課 木原課長、森本副課長、平瀬主査 健康福祉部健康増進課 中野課長 教育委員会事務局こども未来課 中尾課長、福井副課長、進藤副課長	
傍 聴 人 数	1 人	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） ① 開会 ② 新任委員の紹介 ③ 平成 28 年度子ども・子育て支援事業計画の実施状況について ④ 平成 29 年度の取組みについて ⑤ 閉会	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	資料 1 宍粟市子ども・子育て会議委員名簿 資料 2 平成 28 年度宍粟市子ども・子育て支援事業計画の実施 状況について 資料 3 平成 29 年度幼稚園・認定こども園・保育所入園（所） 見込児童数 資料 4 平成 29 年度あずかり保育・学童保育入所見込児童数 資料 5 病児・病後児保育制度の概要	
議 事 録 の 確 認 （記名押印）	（委員長等） _____ ㊟	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
新庄議長	1 開会  2 会長挨拶  平成 28 年度の実施状況の報告が中心になる。 来年度の取組を聞いた後、意見等をいただきたい。
事務局	3 新任委員紹介等  《新任の委員を紹介》  本日は 14 名中 10 名の出席で、半数以上出席しているため、宍粟市子ども・子育て会議条例第 6 条第 2 項による定足数を満たしていることを報告する。
事務局	4 (1) 平成 28 年度子ども・子育て支援事業計画の実施状況について  《こども未来課より》  《教育・保育ニーズについて》  1 号認定の見込み 343 人に対し、確保した定員は 340 人だった。 申し込みは 292 人で、すべて受け入れている。 3 歳児 16 人については、波賀幼稚園、ちくさ杉の子こども園、みのりこども園で受け入れている。 2・3 号認定については、1 月末時点で待機児童が 1 人でている。 現時点（年度末）では 0-1 歳児の 4 人が待機児童となっている。 利用定員を超えて申し込みがあったことによる。 保育室の面積基準と保育士の配置基準により入所調整している。 10 月 1 日の待機児童は 0 人だが、それ以降、保護者の希望に添えていない。 出生数は年々減少が続いており、利用定員の拡充は難しい。 今年度の取組みとしては、みのり保育園のこども園の認可があったが、保育の部分はそのまま移行したため 2・3 号の保育に大きな変化はない。  《地域子ども・子育て支援事業》  2 ページの②の時間外保育については、希望どおり対応できている。 ③の放課後児童健全育成事業について、利用希望に対応できている。 ⑧幼稚園在園児の一時預かり事業には空きがあり、ニーズに対応できている。

	<p>⑧幼稚園在園児以外の一時預かり事業についても対応できている。</p> <p>《健康増進課より》</p> <p>①の利用者支援事業については、子育て全般について広く相談にのる事業になる。北庁舎のしーたん広場に専門員を1名配置して実施している。</p> <p>④の子育て短期支援事業については、家族が病気等で子どもを養育できない場合に、一時的に児童福祉施設等で預かる制度で、2人の登録があるが、利用には至っていない。</p> <p>⑤は母子保健事業と一体で実施しており、生後3から4ヶ月の子がいる家庭に保健師が訪問しており、希望の全てに対応できている。</p> <p>⑥は子育てのためのホームヘルパーの派遣で、準備できているが利用はない。</p> <p>⑦は子育て支援センターの事業になるが、各保健福祉センターと学遊館で実施しており、それぞれ相談員と補助員を配置して実施している。</p> <p>⑪の妊婦健診については、母子手帳の交付も減っており、計画よりも少ない利用になっている。</p> <p>《社会福祉課より》</p> <p>⑨の病児・病後児については実施できていないが、制度の不明点や県内実施状況を確認するため、県庁に行った。実施に向けて関連部署と調整している。詳細は後ほど別途説明する。</p> <p>⑩のファミリーサポートセンター事業は、利用が見込みを大きく超えた。毎日学童保育の送迎で利用があり、数が多くなった。利用希望に対応できるよう、まかせて会員の確保に努める。</p> <p>新庄議長 平成29年1月末時点の実施状況だったが、ご意見、ご質問お願いしたい。</p> <p>資料にある0歳児の待機児童はどこ地域か。</p> <p>事務局 資料は1月末の時点になるが、平成29年3月1日現在の待機児童は4名で、内訳は山崎2名、一宮1名、千種1名になっている。</p> <p>育児休暇を延長しての対応が1名。休職中で就労していない人が1名。祖父母が見ている家庭の2名が、在宅で待機になっている。</p> <p>この内3名は、一時預かりの事業を定期的に利用されている。</p> <p>4(2)平成29年度の取組みについて</p> <p>新庄議長 平成29年度の取組みについて、事務局より説明をお願いします。</p> <p>《健康増進課より》</p>
--	--

事務局	<p>平成 29 年 4 月 1 日に子育て世代包括支援センターを開設する。 資料で配布したスクスク応援カレンダー（校正中）にあるような内容になる。 初めて子どもを育てる方は、色々な制度を上手に使いこなすのが難しく、相談や支援を担当部署につないでいくことを目的にしている。 全国的にも、県内でも開設を急いでいる状況にある。 母子保健コーディネーターを配置して、4月からセンターが動いていく。</p>
新庄議長	<p>質問や意見があればお願いしたい。</p>
山本委員	<p>このカレンダーは妊婦に配布するものか。 お母さんだけでなく、おじいちゃん、おばあちゃん世代にも周知してほしい。 家族でサポートする助けになるかもしれない。</p>
事務局	<p>センターについては、広報誌 5 月号に掲載を予定している。</p>
新庄議長	<p>このカレンダーの全戸配布は難しいだろうか。検討してほしい。</p> <p>引き続き、幼稚園、保育所、認定こども園の入所見込みについて、事務局より説明をお願いします。</p> <p>《こども未来課より》</p>
事務局	<p>平成 29 年度の幼稚園、保育所、認定こども園の入園（所）受付状況について報告する。</p> <p>この 4 月から三方幼稚園で 3 歳児の受け入れを始める。対象者 13 名の保護者に説明し、3 名の申し込みがあった。これが全市で提供できていないのは大きな課題で、順次環境整備に努めていく。</p> <p>こども園で、管外を含め 3 歳児 20 人の申し込みを受付けている。</p> <p>保育を必要とする子どもの受付について、公立保育所、民間保育園、こども園、合わせ 886 人を受付けているが、途中入所の申し込みを含んでいる。管外の保育については、市外の施設に通う宍粟の子どもが 21 名。市内の施設で受け入れる市外の子どもが 21 名になっている。</p> <p>あずかり・学童保育について、民間のくりのみ保育園で 40 名を受け入れているが、それ以外で 408 名の申し込みがあった。キャンセルや入所調整等で、今日現在 399 名の入所予定になっている。</p>
新庄議長	<p>質問、意見等あればお願いしたい。</p>
山田委員	<p>噂話で、山崎幼稚園がなくなって認定こども園になるようなことを聞いたが、そのような計画があるのなら説明してほしい。</p>
事務局	<p>宍粟市では平成 21 年に幼保一元化推進計画を定め、市内の全ての幼児教育</p>

	<p>保育の環境整備を進めている。</p> <p>質問のあった件については、12月の新聞に山崎幼稚園の園舎の写真を使った記事が掲載されたため、誤解された方がおられたようだ。</p> <p>現時点で特に山崎幼稚園についての計画はないが、民間を含む市内の全ての幼稚園と保育所を対象に、幼保一元化による認定こども園によって、質の高い幼児教育と保育ができるように提案させていただいている。順次、保護者や地域の方を対象に協議会を立ち上げて相談させていただいており、山崎の校区についても幼稚園をどうするか、できるだけ早く協議いただけるようなプランを示せるようにしたいと考えているが、現時点で山崎幼稚園をどうするというような状態ではないので、方向性のみの説明とさせていただく。</p>
山田委員	<p>仕事で乳幼児の保護者と接しているが、幼稚園に行かせたいと考える保護者もいることを知っておいてほしい。</p>
事務局	<p>公立の民営化の視点で意見をいただくことが多いが、民間であっても国の基準があり、園の幼児教育・保育には公立と民間で差はない。今よりも質の高い幼児教育と保育ができるよう、教育委員会と運営主体が一緒になって体制を確保して進めていく。決して幼児教育の切捨てを考えているわけではない。認定こども園の中で、幼稚園で行われてきた幼児教育を継承できるように環境を整えていく。</p>
新庄議長	<p>公立では心配しないが、民間化するときに参入する業者によっては、教育の中立性が保てなくなることが危ぶまれるが、そのあたりはどうか。</p>
事務局	<p>平成27年4月に、ちくさ杉の子こども園を開園した。地域の方にも園運営に参加していただき、教育委員会が積極的に園の運営に関わる。理事会にも理事を派遣している。4者協議会（園、保護者、地域の代表、教育委員会）で園運営を検証する役割を担っている。千種幼稚園の教育も継承しており、地域の皆様の意見をいただきながら教育ができる仕組みを作っている。</p>
新庄議長	<p>先ほどの話のようなことが、幼保一元化がなかなか進まない要因であると思うので、取り入れて進めてほしい。</p>
事務局	<p>学童保育については、これまでは学校の空き教室を利用して実施してきたが、河東学童保育所について待機児童を解消するため、専用の教室を新設する予算案を議会に提示している。承認が得られれば進めていく。</p>
田中委員	<p>山崎小学校では旧図書室を利用して実施されているが、利用者が増加している。同様の計画はないか。</p>
事務局	<p>用地の問題で、実施は困難な状況にある。</p> <p>平成29年度より、くりのみ学童保育所で改築を実施して、定員を20名増やして対応することを予定している。河東学童保育所20名、くりのみ学童保育</p>

	<p>所 20 名の、合わせて 40 名の定員を増やすことを計画している。</p> <p>《社会福祉課より》</p> <p>病児・病後児保育について、1 月末時点の県内の実施状況については、病児対応型が 36 箇所、病後児型が 15 箇所、診療書型が 2 箇所になる。西播磨や淡路は、まだこれから状況である。</p> <p>実施に向けては、医療機関でやるのか、保育所でやるのか。また、保育士や看護師の確保。医師会の協力がないと実施できない。庁内の関連部署と調整を進めていく。</p>
事務局	
新庄議長	<p>5 閉会</p> <p>これで本日の議事は全て終了した。 最後に副会長より挨拶をお願いします。</p>
山根副会長	<p>子育てに関連する様々な施策がより良いものになるよう、調整を続けてほしい。</p>

\* 発言者の表記は、「〇〇議長」、「〇〇委員」、「事務局」とする。